- A15 韓国でマラリア媒介種シナハマダラカの人吸血指数と一日生存比
 ○李漢一・黄義郁・李仁容・金義恩 (延世大・医大・寄生虫学)
 Daily survival and human blood index of *Anopheles sinensis*, the vector
 species of malaria in Korea
 Ree, H.I., Hwang, U.W., Lee, I.Y. and Kim, T.E.

南韓で1970年代末完全に根絶した vivax マラリアが1993年1名の患者を始め1994年25名, 1995年107名, 1996年356名, 1997年1724名, 1998年3932名と急激な増加傾向を見せている。流行地はDMZ(休戦線)に隣接した京畿道北部地域に限られている。このようなマラリア流行様状を理解する為, 媒介種シナハマダラカの昆虫学的調査を実施した。野外で採集した吸血雌虫の血餅をELISAで分析し宿主嗜好性を調べた結果人0.7%, 牛93.5%, 豚3.1%, 犬0.7%, 鶏1.7%, 牛豚混合0.3%で人吸血指数0.007であった。3098匹雌虫の卵巣を解剖した結果経産率は平均65.4%で一日生存比は0.868であった。季節別経産率は7月75.2%, 8月56.5%, 9月78.5%, 10月65.6%であった。シナハマダラカ個体群の季節消長と経産率を週別に比較した結果も報告する。

- A16 コガタアカイエカの有効積算温度法則パラメータ
 — 従来法と新法による推定値比較 —
 ○池本孝哉 (帝京大医学部寄生虫学)、
 高井憲治 (聖マリアンナ医大・免疫学病害動物学)
 Parameters in the law of total effective temperature for *Culex tritaeniorhynchus* strains
 — Comparison between the two values estimated by the usual and the new methods —
 Ikemoto T. and Takai K.

温度 T と発育所要日数 D の観察値から、有効積算温度法則のパラメータである有効積算温度 k と発育ゼロ温度 t を推定するために、 $Y=a+bX$ 形式の線形化が必要となる。従来一般に用いられる $1/D=-(t/k)+(1/k)T$ 式がこれにあたるが、演者らは $(DT)=k+tD$ 式をつかった新しい推定法を提唱している。これまで発表されているコガタアカイエカ幼虫の温度と発育日数の関係について、これら2つの推定法を用いて k と t の値を再推定してみた。台湾、沖縄、長崎、大阪、宮城と北京の6系統のデータにつき、従来法ではその特徴が明確でなかった。これに対し新法による推定値では北京系統とその他の系統に明瞭な違いが認められ、台湾から宮城に至るほぼ直線上に位置する5系統は k 、 t ともほぼ近接した値となった。